

# ユーザーガイド

## Profoto Pro-11

他言語は以下にアクセスしてください。

Pour les autres langues, veuillez consulter:

[www.profoto.com](http://www.profoto.com)





## 新しい Profoto 製品をご購入いただきありがとうございます。 とうございます。

お選びいただいた製品が新しいフラッシュであってもライトシェーピングツールであっても、弊社の半世紀を超える経験が製造に活かされていることは共通しています。

弊社の長年の経験から学んだことは、細部を一つたりともおろそかにしてはいけないということです。わたしたちは、十分に自信の持てるものだけを Profoto の製品としてお届けしています。各製品は出荷前に、多岐にわたる徹底的な検査を受けており、一定水準の性能、品質、および安全性に適合していない製品は出荷されません。

こうして出荷された Profoto 製品は、お客様を長期的に支援できると確信しています。とはいえ、製品の購入はその過程のほんの始まりにすぎません。製品をライトシェーピングに活かしていただくことこそが、現在の、また未来に向かっての本当の挑戦です。これこそが、弊社が幅広いライトシェーピングツールの品揃えをご用意し、常に最新技術を取り込んだ製品をお客様にお届けして、どのようなデバイスであってもお客様が思い浮かべるあらゆる光を形にするお手伝いをできることに誇りを持っている理由なのです。

無限のような可能性を前にして、最初は圧倒されてしまうかもしれませんが、きっとすぐに慣れていただけます。

弊社の Profoto アプリをダウンロードして MyProfoto アカウントに登録していただくと、Profoto デバイスを管理したり、製品情報とアップデートを確認することができます。トップクラスのフォトグラファーによるライトシェーピングを理解するためのヒントやコツもお届けします。弊社の持つ 50 年を超えるライトシェーピングの経験を分かち合うことで、皆さんの成長のお役に立てれば幸いに思います。

ぜひ Profoto 製品をご活用ください。

創業者 Conny Dufgran

# 一般的な安全上の注意事項



## 安全上のご注意

装置を使用する前に取扱説明書と添付の安全上の注意事項をよくお読みください。Profoto 安全上の注意事項は必ず装置の近くに保管してください。Profoto 製品はプロによる使用を目的としています。ジェネレーター、ランプヘッド、アクセサリは屋内での写真撮影のみを目的としています。湿度や強い電磁場にとさらされる可能性のある場所、または可燃性ガスや粉塵のある場所に装置を置いたり、そのような場所で装置を使用したりしないでください。装置に水滴などがつかないようにしてください。花瓶など液体の入った容器を装置の上や近くに置かないでください。装置を湿度が高い条件下で急激な温度変化にさらさないでください。本体内部で結露が発生する可能性があります。本装置を他ブランドのフラッシュ装置に接続しないでください。保護ガラスカバーまたは保護グリッドのないフラッシュヘッドを使用しないでください。ガラスカバーにひびや深い傷などの損傷が目視で確認でき、効果が損なわれると考えられる場合は、ガラスカバーを交換してください。ランプが損傷していたり、熱によって変形している場合は交換してください。ランプをホルダーに取り付ける際は、素手でバルブに触れないように注意してください。装置の点検、調整、修理は必ず公認の資格を持つサービススタッフのみが行うものとします。警告 - 稲妻のマークが付いた端子は感電の危険があります。



## 警告 - 感電注意 - 高電圧

電源ジェネレーターは必ず保護アース接続のある電源コンセントに接続してください。Profoto の延長ケーブル以外は使用しないでください。ジェネレーターやランプヘッドのカバーを開けたり分解したりしないでください。装置は高電圧で動作します。ジェネレーターをオフにしてもコンデンサーはかなり長時間帯電しています。アンブレラの金属製の支柱をリフレクターの穴に差し込む際、モデリングランプやフラッシュチューブに触れないようご注意ください。モデリングランプやフラッシュチューブの交換は、ジェネレーターとランプヘッドを接続するランプヘッドケーブルを取り外してから実施してください。電源プラグまたは電源接続器は遮断デバイスとして使用されます。遮断デバイスは常に操作可能な状態にしておく必要があります。バッテリー（バッテリーパックまたは装置に取り付けられているバッテリー）は直射日光や炎など過度の熱にさらさないでください。



## 警告 - 大きな音

突然大きな音がする可能性があります。聴覚保護具を使用する、および/またはユーザーやその他の人とジェネレーターとの最低安全距離 68cm (27 インチ) を遵守するようにしてください。



## 注意 - やけどの危険 - 高温部品

高温の部品に素手で触らないでください。モデリングランプ、フラッシュチューブ、一部の金属部品は使用時に高温を放熱します。モデリングランプやフラッシュチューブを人に向ける場合は近づけすぎないようにしてください。どのランプもごくまれに爆発し、高温の破片が飛び散ることがあります。モデリングランプの定格電圧が、電源に関して記載されているユーザーガイドの技術データと一致していることを確認してください。

## 警告

電源ケーブルおよびプラグは主電源からの遮断デバイスとして機能します。装置を使用し終えたら、必ず電源コンセントから外してください。その際、ケーブルではなくプラグを持ってください。電源ケーブルを延長する場合は、家庭用の一般的な延長コードは決して使用しないでください。過熱する可能性があります。ご使用前にコード巻き取りリールを必ず完全に引き出してください。正規の装置については Profoto 販売店にお問い合わせください。

## 無線周波数に関する注記

この装置は無線周波数帯を利用し、無線周波エネルギーを発生させます。デバイスがシステムに組み込まれている場合は適切な配慮が必要になります。本文書に記載されているすべての仕様に基づいてください。特に動作温度および供給電圧範囲に関する仕様にはご注意ください。デバイスの動作は現地の規制に従っていることをご確認ください。本デバイスが使用する周波数帯が他のユーザーによって使用中であることも考えられます。そのため、干渉の可能性を排除することはできません。無線周波数仕様: 2.4 GHz (2404~2479.3 MHz)、<19.9 dBm (中国 <9.9 dBm)



## 最終廃棄処分

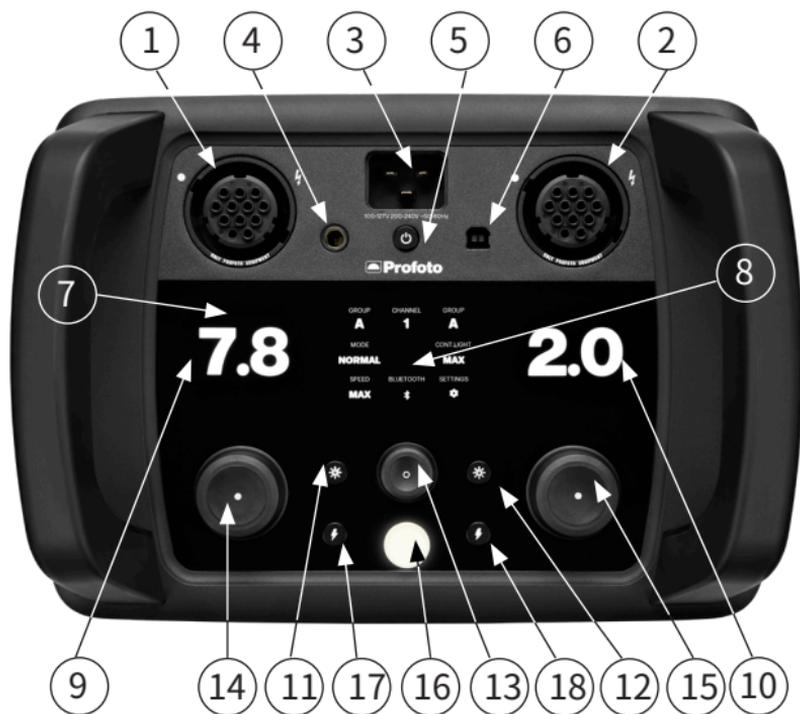
製品が寿命に達した場合は、家庭ゴミと一緒に処分しないでください。装置には環境に有害な可能性のあるバッテリー、電気部品および電子部品が含まれています。装置は Profoto 販売店に無料で返却いただくことによって、リサイクルに活用することができます。バッテリー、電気部品および電子部品の処分については、それぞれ現地の規制に従ってください。

# 目次

一般的な安全上の注意事項.....	4
各部の名称.....	7
ご使用前に .....	8
安全義務.....	8
製品登録とファームウェアアップデート.....	8
基本的な操作 .....	8
電源ケーブルの接続と起動.....	8
ランプヘッドを接続する .....	9
ランプヘッドの ON/OFF を切り替える .....	9
出力を調整する.....	9
定常光の ON/OFF を切り替える .....	10
テスト発光する .....	10
電源 OFF にして電源ケーブルを外す .....	10
メインメニューのナビゲーション.....	11
メインメニューでの設定項目 .....	12
Group (グループ).....	12
Channel (チャンネル).....	12
Mode (モード).....	12
Continuous light (定常光) .....	13
Speed (スピード) .....	13
Bluetooth .....	13
Settings (設定).....	13
設定メニューのナビゲーション.....	14
設定メニューの設定項目 .....	15
Air .....	15
Bluetooth .....	15
IR sync .....	15
Ready signal (レディシグナル) .....	16
Control sounds (操作音) .....	16
Warning sounds (警告音).....	16
Display brightness (ディスプレイの明るさ).....	16
Advanced (詳細) .....	17

接続 .....	18
Profoto リモートとの接続を設定する .....	18
Profoto アプリ .....	19
その他の機能 .....	20
クイックバースト .....	20
誤露出アラーム .....	20
過熱保護 .....	21
Pro-11 をガソリン発電機で使用する .....	22
技術仕様 .....	23
一般仕様 .....	23
クレジット .....	24

## 各部の名称



- |                                      |                |
|--------------------------------------|----------------|
| 1. ランプヘッドコネクタ左                       | 10. 出力ディスプレイ右  |
| 2. ランプヘッドコネクタ右                       | 11. 定常光ボタン左    |
| 3. 電源 (AC) 入力                        | 12. 定常光ボタン右    |
| 4. SYNC (同期) ポート (同期ケーブルを使用してのトリガー用) | 13. 設定ダイヤル     |
| 5. 電源ボタン                             | 14. 出力ダイヤル左    |
| 6. USB ポート (サービス用)                   | 15. 出力ダイヤル右    |
| 7. IRsync/フォトセル                      | 16. テストボタン     |
| 8. メニューディスプレイ                        | 17. ランプヘッドボタン左 |
| 9. 出力ディスプレイ左                         | 18. ランプヘッドボタン右 |

## ご使用前に 安全義務

Pro-11 の使用を開始する前に、本ユーザーガイドのほか、クイックスタートおよび安全ガイドをお読みいただく必要があります。製品を安全に操作いただくための重要情報や、規制に関する重要情報が記載されています。多言語に翻訳されたクイックスタートおよび安全ガイドの冊子が Pro-11 に同梱されています。また、本ユーザーガイドをダウンロードした場所から、同様にダウンロードすることもできます。

## 製品登録とファームウェアアップデート

ご使用前に、製品登録とファームウェアアップデートが必要です。Pro-11 を初めて起動すると、Welcome 画面と QR コードが表示されます。この QR コードをスマートフォンでスキャンすると、Pro-11 のセットアップ方法を説明するウェブページに移動します。

## 基本的な操作

### 電源ケーブルの接続と起動

1. 同梱されている電源ケーブルを電源入力 [3] とアース付きの AC 電源に接続します。
2. 電源ボタン [5] を押して Pro-11 を起動します。

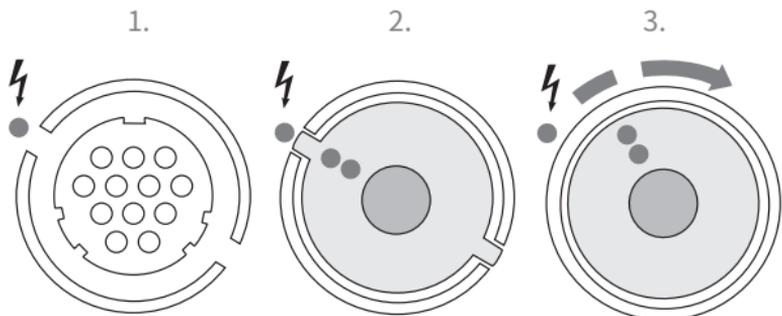
### 警告

電源ケーブルを延長する場合は、家庭用の一般的な延長コードは決して使用しないでください。過熱する可能性があります。ご使用前にコードリールを必ず完全に引き出してください。正規の装置については Profoto 販売店にお問い合わせください。

## ランプヘッドを接続する

Profotoのランプヘッドコネクタを使用すると、Pro-11の電源が入っている場合でもランプヘッドを安全に接続および接続解除できます。Pro-11にはProfotoのランプヘッド以外は使用しないでください。

ランプヘッドプラグを接続する際、プラグの白い点を Pro-11 パネルの白い点に合わせてください。プラグのリングを時計回りに回転させて固定します。



## ランプヘッドのON/OFFを切り替える

ランプヘッドボタン [17] または [18] を押してランプヘッドの ON と OFF を切り替えます。ランプヘッドが有効になると、出力設定がディスプレイ [9] または [10] に表示されます。

## 出力を調整する

ランプヘッドの出力 (光量) がディスプレイ [9] または [10] に表示されます。出力値は f-stop の値と相関関係にあります。ON になっているランプヘッドが1つだけの場合、光の最大出力は10です。ON になっているランプヘッドが2つある場合、最大出力をこの2つで分け合います。

出力ダイヤル [14] または [15] を使用してフラッシュの出力を変更します。

- ダイヤルを回すと、f-stop の10分の1段階ずつ出力が変化します。
- ダイヤルを押し込んで回すと、f-stop の1段階ずつ出力が変化します。

## 定常光のON/OFFを切り替える

定常光ボタン [11] または [12] を押して、定常光のONとOFFを切り替えます。定常光が有効になると、ライトインジケーターがディスプレイ [9] または [10] に表示されます。

## テスト発光する

Pro-11 の充電が完了してフラッシュの準備が整うと、白いテストボタン [16] が点灯します。

## 10

テストボタン [16] を押してフラッシュをたき、光の出力設定をテストします。フラッシュをたいた後、Pro-11 が再充電するまでの間、テストボタンはOFFになります。再充電が完了すると、テストボタンは再びONになります。

## 電源OFFにして電源ケーブルを外す

Pro-11 をOFFにすると、その時点の設定が保存され、Pro-11 を再度ONにしたときにその設定が適用されます。

1. 電源ボタン [5] を押します。
2. 電源ケーブルを外します。

## メインメニューのナビゲーション

使用頻度の高い設定項目は、メニューディスプレイ [8] のメインメニューから直接アクセスできます。



設定ダイヤル [13] を使用してメインメニュー内を移動します。

1. ダイヤルを回して任意の設定を選択 (ハイライト) します。
2. ダイヤルを押して選択可能なオプションを表示します。
3. ダイヤルを回して設定オプションを切り替えます。
4. ダイヤルを押してハイライトされたオプションに設定します。

## メインメニューでの設定項目

### Group (グループ)

グループ設定 (左と右) では、グループ (A～F) をランプヘッドコネクタ [1] と [2] に割り当てます。これは Pro-11 を Profoto リモート使用するために必要なセットアップです。

グループ設定は、設定メニューで Air が ON に設定されている場合にのみ使用可能です。

## 12

### Channel (チャンネル)

チャンネル設定では、Profoto リモートからの無線トリガーに使用するチャンネル (1～20) を選択します。

チャンネル設定は、設定メニューで Air が ON に設定されている場合にのみ使用可能です。

### Mode (モード)

モード設定は、閃光時間と色温度安定性の間で Pro-11 がどのように優先順位付けするかを選択します。

- NORMAL (ノーマル): 出力範囲全体を通じて一貫した色温度安定性を得るために最適化されます。ほとんどのタイプの撮影に最適なモードです。
- FREEZE (フリーズ): 出力範囲全体を通じて短い閃光時間を得るために最適化されます。速いアクションをフリーズするためにフラッシュを使用する撮影に最適なモードです。

#### 注

モード設定が影響するのは、カメラの X-sync 範囲内でのシャッタースピードでフラッシュを使用する場合だけです。ハイスピードシンクロを使用した短いシャッタースピードで撮影する場合は、2つの設定による違いはありません。

NORMAL および FREEZE モードの閃光時間と色温度の概要については、**Technical specifications**を参照してください。

## Continuous light (定常光)

定常光設定では、出力設定に対して定常光の強さをどのように調整するかを定義します。

- MAX (最高):フラッシュの出力設定にかかわらず、定常光の強さが最高になります。
- PROP (比例):定常光の強さはフラッシュの出力設定に比例します。この設定は、定常光をモデリングライトとして使用する場合にお勧めです。

## Speed (スピード)

スピード設定では、Pro-11の発光後のリサイクルタイムを指定します。この設定により、電源ヒューズが飛ぶことなく、主電源からの供給を効率的に使用できるようになります。

- MAX (最高):最高速度。この設定では、壁コンセントまたはヒューズグループにPro-11を1台しか接続できません。
- 50%:50%のスピードで、リサイクルタイムは2倍になります。この設定では、同じ壁コンセントまたはヒューズグループにPro-11 ジェネレーターを2台接続できます。
- 25%:25%のスピードで、リサイクルタイムは4倍になります。定格の低いヒューズを備えた電源にPro-11を接続している場合や、電源にあるヒューズの定格がわからない場合、また、出力の小さいガソリン発電機をPro-11の電源として使用している場合にはこの設定を選択します。この設定では、同じ壁コンセントまたはヒューズグループにPro-11 ジェネレーターを3台から4台接続できます。

## Bluetooth

Bluetooth設定でBluetoothサブメニューが開き、以下を設定できます。

- ProfotoアプリがPro-11を見つけられるようにするにはONを選択します。
- Bluetoothを無効化するにはOFFを選択します。

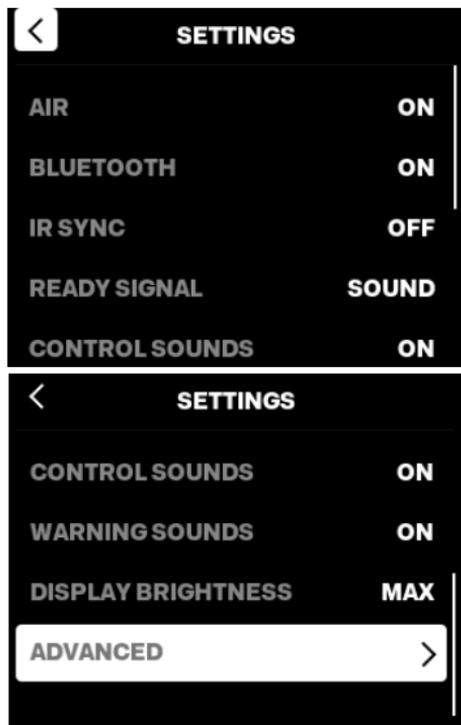
Bluetoothが有効になると、メニューディスプレイ [8] にBluetoothインジケーターが表示されます。

## Settings (設定)

設定オプションを選択すると、設定メニューが開きます。

## 設定メニューのナビゲーション

設定メニューから追加設定にアクセスできます。メインメニューで設定オプションを選択して、設定メニューを開きます。



設定ダイヤル[13]とボタンを使用して設定メニュー内を移動します。

- ダイヤルを回して任意の設定を選択(ハイライト)します。
- ダイヤルを押してONとOFFのオプションを切り替えます。
- ダイヤルを押してサブメニューを開きます。
  - ダイヤルを回してサブメニューオプションを切り替えます。
  - ダイヤルを押してハイライトされたオプションに設定します。
  - [11]、[12]、[17]、[18]のいずれかのボタンを押してサブメニューを終了します。
- テストボタン[16]を押すか「<」を選択してからダイヤルを押して、設定メニューを終了します。

## 設定メニューの設定項目

### Air

Air 設定では、Profoto リモートとの無線接続を有効化または無効化します。

Air を ON に設定している場合、チャンネルおよびグループも設定する必要があります。詳細は **Set up connectivity with Profoto remotes** をご覧ください。

### Bluetooth

Bluetooth 設定では、Profoto アプリとの無線接続を有効化または無効化します。

- Profoto アプリが Pro-11 を見つけられるようにするには ON を選択します。
- Pro-11 と Profoto アプリの接続を解除するには「DISCONNECT」を選択します。
- Bluetooth を無効化するには OFF を選択します。

### IR sync

IR sync 設定では、内蔵されている赤外線スレーブセンサーを有効化または無効化します。

IR sync が ON に設定されていると、別のフラッシュがたかれた場合や IR 信号が検出された場合に Pro-11 もトリガーされます。また、IR インジケータがメニューディスプレイ [8] に表示されます。

#### 注

別のトリガー方法 (Air など) が使用されている場合、IR sync は OFF に設定することをお勧めします。

## Ready signal (レディシグナル)

レディシグナル設定では、発光後にPro-11の再充電が完了して、再発光の準備が整ったことを示すための方法を選択します。

- SOUND (サウンド):再発光の準備が整うとPro-11からピープ音が鳴ります。
- DIM (ディム):発光後、定常光がOFFになり、Pro-11で再発光の準備が整うと再びONになります。
- SOUND DIM (サウンドディム):発光後、定常光がOFFになります。再発光の準備が整うと、定常光はONになり、Pro-11からピープ音が鳴ります。

### 注

白いテストボタン[16]は発光後必ずOFFになり、Pro-11の充電が完了すると再びONになります。

### 注

入力電圧が低く、スピード設定がMAXに設定されている場合、レディシグナルの設定にかかわらず、発光後は常に定常光がOFFになります。

## Control sounds (操作音)

操作音設定では、ダイヤルとボタンの操作音を有効化または無効化します。

## Warning sounds (警告音)

警告音設定では、誤露出アラーム音を有効化または無効化します。

### 注

EXPインジケーターは、警告音設定にかかわらず、誤露出アラームが作動する際には必ずメニューディスプレイ[8]に一時的に表示されます。

## Display brightness (ディスプレイの明るさ)

ディスプレイの明るさ設定では、ディスプレイ [8]、[9]、[10] の明るさを設定します。

## Advanced (詳細)

詳細オプションでは詳細設定メニューが開きます。

## Auto off (自動 OFF)

自動 OFF 設定では、設定可能な無操作時間経過後に Pro-11 を自動的に OFF にするかどうかを設定します。

## Auto on (自動 ON)

自動オンを ON に設定すると、電源ケーブルを接続した際に Pro-11 が自動的に起動します。

## About (製品について)

このセクションには、シリアル番号やファームウェアバージョンなどの情報が表示されます。

## Regulatory info (規制情報)

このセクションには、規制に関する情報が表示されます。

## Factory reset (出荷時の設定に戻す)

出荷時の設定に戻すオプションは、全設定を工場出荷時の既定の設定に戻すために使用します。

## 接続

Pro-11にはProfoto AirX接続が内蔵されています。AirXは、AirとAirTTLに続く第3世代のProfoto 無線接続です。

AirXは以下をサポートしています。

- Profoto Air/AirTTL 対応リモートでの無線Air/AirTTL機能。
- AirX対応Profoto リモートおよびアプリでの専用AirX機能。

### Profoto リモートとの接続を設定する

以下はPro-11での基本的な設定手順のみ記載しています。詳細な操作手順については、お使いのProfoto リモートのユーザーガイドを参照してください。

1. Pro-11 設定メニューでAirをONに設定します。
2. Pro-11 メインメニューで、Profoto リモートで設定したチャンネルと同じものを選択します。
3. Pro-11 メインメニューで、各ランプヘッドコネクタにグループ(A~F)を割り当てます。

### Profoto リモート使用時のオート (TTL)

オート (TTL) の場合、Air チャンネルとグループ設定が完了していれば、Pro-11での特別な設定は必要ありません。お使いのProfoto リモートでオート (TTL) とマニュアル (MAN) を切り替えて、リモートがフラッシュを自動で調整するかマニュアルでコントロールするかを選択するだけです。

Pro-11は、リモートをマニュアル (MAN) に切り替えた場合、オート (TTL) で設定した出力を維持します。これにより、いわば「露出計」としてオート (TTL) をマニュアル調整の開始点に利用することができます。

リモートによりオート (TTL) が有効になると、**AUTO** インジケーターが出力ディスプレイ [9] または [10] に一時的に表示されます。

リモート上でオート (TTL) グループ調整がされていると、オフセットを含めて**AUTO** インジケーターが出力ディスプレイ [9] または [10] に一時的に表示されます。

## Profoto リモート使用時のハイスピードシンクロ (Hi-S)

ハイスピードシンクロ (Hi-S) の場合、Air チャンネルとグループ設定が完了していれば、Pro-11 での特別な設定は必要ありません。ハイスピードシンクロはリモートまたはカメラで有効化されます。

リモートによりハイスピードシンクロが有効になると、**Hi-S** インジケーターがメニューディスプレイ [8] に一時的に表示されます。

## Profoto アプリ

Profoto アプリでは新機能を継続的にアップデートしています。また、Pro-11 の最新機能のアップデートやバグ修正も、アプリからアクセスできます。

Profoto アプリを利用するメリットの一部を紹介します。

- 簡単な登録とアップデート。購入製品を登録して簡単に Pro-11 の最新アップデートを入手できます。
- スマートなリモートコントロール。スマートフォンの画面から Pro-11 をコントロールできます。
- スマートフォンカメラでの撮影。スマートフォンでの写真撮影に本物のフラッシュを利用いただけます。

Profoto アプリは、App Store、Google Play、Huawei AppGallery から入手できます。Profoto アプリの詳細については、Profoto.com をご覧ください。

Profoto アプリを Pro-11 に接続するには、Bluetooth を有効にする必要があります (Main menu navigation をご覧ください)。次に Profoto アプリを起動してアプリ内の指示に従います。

## その他の機能

### クイックバースト

クイックバーストは自動的に有効化され、Pro-11 が再充電するよりも速く、一定の出力で連続でフラッシュをたくことができる機能です。この機能は、光が最大出力未満に設定されている場合にのみ有効になります。バーストの長さ（フラッシュの数）は、連続発光率と出力の設定により異なります。出力の設定を低くすると、より長いバーストをトリガーできます。

#### 注

出力の精度はクイックバーストが有効になっているとわずかに低下します。

### 誤露出アラーム

誤露出アラームは、たかれたフラッシュの出力が設定値に完全に対応していない場合にトリガーされます。これは、Pro-11 の充電が完了する前にフラッシュがたかれた場合に発生し、クイックバースト機能もこれを補うことはできません。オート（TTL）の使用時、対応範囲外の出力が要求された場合に誤露出アラームが作動します。

誤露出アラームが作動すると、**EXP** インジケーターがメニューディスプレイ [8] に表示され、警告音が鳴ります（設定メニューで有効になっている場合）。

## 過熱保護

Pro-11 には効率的な冷却および安全システムが搭載されています。内蔵ファンはスピードを内部温度と冷却の必要性に応じて自動調節します。ファンは、Pro-11 がスタンバイモードであっても動作します。また電源ケーブルが外された後しばらくの間は動作します。

周囲温度が高いなどの厳しい条件にさらされた場合や通気口が塞がれた場合に、保護システムが自動的に Pro-11 を損傷から保護します。重要な部品が過度に熱された場合、保護システムにより充電間隔が長くなり、最終的に充電は完全に停止します。しばらく経って、温度が十分に低下すると、Pro-11 は再び正常に動作を開始します。

### 注

Pro-11 が厳しい温度環境に保管されていた場合、通常の屋内温度になじむまでは使用しないでください。Pro-11 には温度の影響を受ける部分が大きく、周囲温度になじむまで1～3時間かかる場合もあります。冷えた Pro-11 は正常に動作しないことや故障することさえあり、本来の容量(フラッシュ出力)を発揮できなくなります。また、冷えた Pro-11 を暖かい環境に移動すると結露が発生し、故障する可能性もあります。

## Pro-11 をガソリン発電機で使用する

ガソリン発電機は、電子機器の損傷につながるようなピーク電圧を発生する可能性があります。ただし、Pro-11 は、規定電圧および周波数 (100～127Vまたは200～240V、50～60Hz) と同等の交流電力を供給するガソリン発電機の定格に十分耐えられるよう作られています。

1 台の Pro-11 を最大充電速度で給電するには、6000W の専用ガソリン発電機が 1 台必要です。

## 22

1 台の Pro-11 を 50% の充電速度で給電するには、3000W のガソリン発電機 1 台が推奨されます。2 台の Pro-11 の場合は 6000W のガソリン発電機 1 台が必要となります。

1 台の Pro-11 を 25% の充電速度で給電するには、2000W のガソリン発電機 1 台が推奨されます。

### 注

Pro-11 と同時に別の型のフラッシュを同じガソリン発電機で使用しないでください。フラッシュモデルによっては、ガソリン発電機に高電圧を発生させるものがあり、Pro-11 を損傷する可能性があります。Pro-11 自体は高電圧を発生させることはありません。定格に満たないガソリン発電機を使用すると、さまざまな悪影響が生じます。

## 技術仕様

出力	閃光時間 (1/s)		閃光時間 (1/s)	
	NORMAL (ノーマル)		FREEZE (フリーズ)	
	t0.5	t0.1	t0.5	t0.1
10.0 (2400Ws)	800	400	1,000	600
9.0 (1200Ws)	900	700	1,600	1,500
8.0 (600Ws)	1,300	1,200	3,500	3,000
7.0 (300Ws)	1,800	2,000	8,000	5,000
6.0 (150Ws)	2,600	2,400	14,000	7,700
5.0 (75Ws)	3,700	3,000	20,000	10,000
4.0 (37.5Ws)	4,600	3,500	26,000	11,400
3.0 (19Ws)	5,500	3,800	35,000	13,300
2.0 (9.5Ws)	6,500	4,500	45,000	15,000
1.0 (4.7Ws)	8,000	5,200	62,000	16,400
0.1 (2.4Ws)	12,000	6,500	80,000	17,500

## 一般仕様

最大出力	2400Ws
動作温度	0°C ~ +30°C / 32°F ~ +86°F
メインヒューズの要件	自動ヒューズ特性 C13A/200-240V、15A/100-127V
入力電源	100-127Vまたは200-240V、50-60 HZ 自動電圧検出
サイズ	29 x 21 x 30 cm、13.2 kg

技術仕様の詳細については、[profoto.com](http://profoto.com) をご覧ください。

## クレジット

App Store は、米国および他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。

Google Play および Google Play のロゴは、Google LLC の商標です。

HUAWEI および AppGallery は、中国およびその他の国で登録された Huawei Technologies Co. Ltd の商標です。

Bluetooth ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。Profoto による当該マークの使用はすべて、ライセンスに基づいて行われています。

その他の商標と商品名は各所有者の所有物です。



技術データと製品情報は予告なく変更される場合があります。

PGM0012-0000A3.2021年2月

Profoto AB  
Box 1264,  
17225 Sundbyberg  
Sweden

+46 (0) 8447 53 00  
info@profoto.com  
www.profoto.com

 **Profoto**